

## 電子証明書付きログイン環境の構築

Oracle10gR2 より、電子資格証明書を使用して、データベースに接続できます

### 【メリット】

アプリケーションやシェルスクリプトに、ユーザー名やパスワードを埋め込む必要がなくなります

よって、パスワード変更を行っても、スケジュールされている JOB のメンテナンスも不要になります

データベースへの接続方法

```
sql> connect /@ 《接続文字列》
```

↑

tsnames.ora に設定している接続文字列

※ Oracle 接続時に使用されるユーザー名は、現在使用している OS のユーザーではない

下の 2) で使用した資格証明のユーザー名を使って、Oracle 接続される

電子証明書を使うためのサーバー設定

Enterprise User Security (EUS) 機能を使って、Oracle Application Server に含まれているディレクトリサーバー (Oracle Internet Directory) で電子証明書利用のログイン環境を構築

電子証明書を使うためのクライアント設定

#### 1) Oracle Wallet の作成

```
$ mkstore -wrl ディレクトリ名 - create
```

ここでパスワードの設定を求められるので、パスワードを設定する  
忘れない様に記憶しておくこと

#### 2) Oracle Wallet に資格証明書をリストア

```
$ mkstore -wrl ディレクトリ名 - createCredential 《接続文字列》
```

ユーザー名 パスワード

tsnames.ora に設定している接続文字列 ↑

Oracle に設定してあるユーザーのパスワード

※ コマンドを実行すると、パスワードの入力を求められるので、1) で設定したパスワードを入力する

### 3) sqlnet.ora の設定

下記の 2 行を追加する

```
wallet_location=( source=( method=file ) ( method_data=(directory=ディレクト  
リ名 )))
```

```
sqlnet.wallet_override = true
```